

第2回富山市市町村合併検証委員会  
議事録

日時 令和4年8月23日（火）13：30～16：00  
場所 富山市役所 8階大会議室  
出席者 下記のとおり

1 開会

2 議事

(1) 「富山市の合併」の検証について

委員長

- ・ 合併の経緯や当座の協議事項、公共料金の在り方等を思い出していただくとともに、合併に対するそれぞれの思いを伺う。
- ・ 前回の内容も踏まえ、特に合併の結果どのような変化が生じたかを分析したい。具体的には、新市建設計画について実績ベースでどのようなようになったのか、ということ、その結果全体の都市インフラや生活インフラ、土地利用、人口動態、最終的には市政全体の財政運営や人事管理がどのように変化してきたのかについて、長期的な観点から認識を確定させたい。

事務局から説明

(2) 意見交換

委員

- ・ 合併による変化について、持続可能なまちづくりという視点で見ると、水道料金等の生活インフラや、安全防災が充実していること、行政センターできめ細やかなサービスができていることは実感できた。
- ・ 財政収支が比較的安定していることは大変望ましいことであるが、それに加えて、介護や病院についても安心できるようなデータがあると評価ができると思う。

委員

- ・ 持続可能かどうかという観点が一番大事だと思う。
- ・ ボランティアの人が激減してきている。各地域や町内ごとにどのくらいボランティアが維持できているのか、今後維持できるのかをしっかりと見ていく必要がある。
- ・ 金銭面、人材面の両方の課題があり、自らがどのように協力して地域を守るのかという観点について、数字で表しにくいところもあるかもしれないが、参考数値として今後出していただければと思う。

#### 委員

- ・ 合併の効果について、上下水の整備普及に関しては数字として出ている。いわゆる地域間格差が是正された点等は合併の効果が出ている部分であると思う。
- ・ 一方で、基幹インフラ以外の部分について、合併したから実施できた事業なのか、合併しなくても実施できた事業なのか、の区別が少し見えにくかった。また、新市建設計画を立てた時点で、どのような政策効果を期待して実施した事業なのかを、このタイミングで明確化し、事業を実施したことによってその効果が実現したのか、という合理的な根拠に基づいて検証してはどうか。

#### 委員

- ・ 自治振興連絡協議会における住民の皆さんの一番の興味や関心は、学校再編の問題である。それぞれの地区にはそれぞれの事情があり、住民の間での温度差がある。新市になり、過度の人口集中、人口拡散、散逸となっているところがあり、それがより一層、各地区の問題点を明らかにさせていっている。こういった問題について、合併検証を機に、教育委員会サイドだけの話し合いではなく、全市、各部局がそれぞれの意見を持ち寄って、解決していくという姿勢が大事であると思う。

#### 委員

- ・ 中山間地の中には置いてきぼりをくっているような、不安感、不信感のようなものがある。様々な検証が必要だと思うが、大多数の中山間地が満足できるようにするためにも、これをしっかり検証する必要があると思う。中山間地が疲弊してしまうと、持続可能な発展ができないのではないかと。

#### 委員

- ・ 新駅もでき、大きな商業施設や病院、新しい警察署等が集まり、大変住みやすい場所だと思っている。一方、山間地もあり、一概に喜ぶことばかりではない。総合的に見ると、合併したからできたことが多かったという印象は持っている。

#### 委員

- ・ 合併効果は数多くあると思っている。例えば分遣所の開設、ログハウス新設、施設の運営維持、また学校の耐震化等にも素早く手がけていただいたことをありがたく思っている。
- ・ 効果は大きかったと思うが、その反面、人口動態については、若者の転出が合併以降、顕著に現れているのではないかと。特産品や伝統を継承しなければならないと

いう地域愛を持った若者たちが、合併したことにより、目に見えない旧行政区、旧集落のバリア、壁がなくなったかのように転出している。

- ・ 子育て支援や教育環境の充実が大切なことは言うまでもないが、合併以降に子育て支援等についてどのような対策をしたのか。

#### 事務局 回答

- ・ 合併により広い市域となり、現在市内には約 120 の保育施設がある。居住地や勤務地等、事情に合わせて、多くの施設の中から選択することができることは一つのスケールメリットが感じられるのではないか。
- ・ 子育て世代は企業にとっても大事な人材であり、本市においては各種助成制度で支援している。多様な保育の受け皿を持つことは地域経済を支える意味もあると思っている。
- ・ 様々な悩みや相談に対する専門的な立場の人材の配置は、対応力の高さというふうに捉えても良いと考えている。
- ・ 地域との関わりという面では、地域の方が保育サポーターとして携わっていただいている。
- ・ 合併しなくてもできたのか、できなかったのかについては検証は難しい。新市建設計画自身がどのような効果を期待するのかについては、確認したい。
- ・ 学校再編については、今回の合併検証ではないが、教育委員会だけでなく市全体として考えていく問題であるという認識をもっている。

#### 委員長

- ・ 今後の分析に関して、扶助費は非常に重要な支出でもあり、どのように使われているのか等をもう少し市民目線でも分かるようにしっかり分析する必要がある。
- ・ 地域を支えるボランティア活動について、市民アンケートの中で市民の皆さんに広くご意見をお伺いできるチャンスがあるため、皆さんのアイデアを聞きながら一緒に考えていかなければならないと感じている。
- ・ 自然動態と併せて、社会動態には関心を持って分析を進めている。この辺りについても可能な範囲で引き続き分析したい。
- ・ 子育てについて、この 20 年でサービスがどのように変わったのかは扶助費の分析にも関わり、国の方でお金のやり方が全部変わっているという側面もあるため、合併に関連した提示の仕方を検討したい。

#### 委員

- ・ 合併にあたっては、消防分遣所ができ、消防隊が常駐したり救急車が配置された

りした点では非常に助かっている。

- ・ 中山間地域の活性化のために、中山間地域対策課の創設が望ましい。
- ・ 総合行政センターから中核型地区センターになった地域は、用務の際、高齢者にとっては移動に時間がかかる等、大変難儀をしている。
- ・ 資料では専門職員の配置をしたと書いてあるが、もう少し農林や土木に関する専門職員を配置していただき、住民の声を届けやすくしていただきたい。

#### 委員

- ・ 農業者の減少の問題について、若者がいかに農業に参入、定職してくれるか、それを地域や市全体で考える必要があると思う。
- ・ 外国人や日本の若者を呼び、日本のこれからの農業を支えてくれる若者育成を図ることで農業の活性化ができる。それにより、中山間地からの人の流出に少しでも歯止めをかけることができるのではないか。

#### 委員

- ・ インフラ整備や社会福祉事業については合併による効果があったのではないか。
- ・ 各町内会から上がってくる市に対する要望事項が合併前にはある程度通っていたものが、8割程度は継続事業になってしまうという町内会からの不満がある。

#### 委員

- ・ 市町村合併は、今後日本は人口が減少し、小さな市町村ばかりだとサービスの質が維持向上できないため、スケールメリットを生かし、できるだけ行政サービスの質を維持向上させたいというのが目的だったと認識している。きめ細かい行政をして欲しいという住民の要望がある中で、守っていくべき行政サービスの質と量はどういったものなのか、ということをもみんなで考えていく必要があると思う。

#### 委員

- ・ 分析の内容について、市町村合併によってどのような波及効果があったのか、行政については本日の説明で分かったが、民間にどのような波及があったかについてのデータも示すことができると良い。
- ・ 市町村合併することによって、旧富山市以外の4町2村におけるコンパクトシティ政策の影響、理屈としてはプラスの効果が及ぶという説明がされているが、それが具体的にどのような効果だったのかが一般の市民の目線からは分かりにくいと感じている。

## 委員

- ・ 新市建設計画で取り上げられている事業について、アウトプットやアウトカムがどうなったのかというところは、何かしらあったほうが、この新市建設計画に沿ってまちづくりをした結果がどうだったのかというところが見えて良い。
- ・ 市町村合併は行政の合併ではあるが、行政とそれを支える様々な組織との連携が重要で、その様々な組織は市町村合併によって組織が再編されたのか、あるいは組織間の連携が図られるようになったのか、といったところも大事であると思う。
- ・ 総合計画が最上位にあり、それぞれの個別計画のようなものもあると思う。合併後の富山市として全体的に目配りをしながら、どのような計画がどういった考え方のもとで立てられていったのか、ということもレビューした方が、新市となった富山市の行政の姿を見る上では適切ではないか。
- ・ 人口動態に関して、例えばそれぞれの地域の昼間人口と夜間人口の動態を、経年的な変化も含めて示すことはできないか。
- ・ 財政スケールメリットとは何を意味しているのか、というところについてもう一度はつきりさせる必要がある。

## 事務局 回答

- ・ 農業従事者の減少は、大きな課題だと認識している。本市においては、農業参入しやすいような環境づくりも含め、経済的支援、また若い年代から農業に関心を持っていただくための体験授業の開催などを行っている。今後、若い人が持続可能な農業に繋がるよう、例えば、ICT技術の導入等により、中山間地も含めて、また関係団体とも連携を図りながら、農業の発展について十分に考えていきたい。

## 委員長

- ・ 小さい町の役場では、事実上顔なじみで、ワンストップで済んでいたところ、それが難しくなっている。同時に、大きな流れとしてデジタル化とそれに伴うワンストップサービス化のようなものを模索されているところもある。今後の行政組織と住民とのあり方、特に地域との接点をどう考えるかということの分析、特に今までの20年間でどうであったかを中心に、可能な範囲で検討できればと思う。
- ・ 農業就業者の減少については、全国各地で同じような課題を持っており、特に農業就業者の自然減は避けようがないことであるが、そのような中でも足腰の強い農業就業者と、農村の中で自己消費も含めて農業を楽しんでいく人等も含め、どのように再構築していけば良いかということが重要な課題である。市として農業の支援がどこまでできるかということは、農地相続のあり方等も含めて、市としてどのように対処していけばいいかを検討する必要がある。これは中山間地域をはじめ、この委員会の見地から、現状について最低限の整理をする必要があると思う。

- ・ 建設事業については、完了しているものの効果よりも中止や未実施となっているものの理由が知りたいと思うのは、一般的な関心ではないか。どういった経緯で未実施、中止になっているかということについて、報告書の中である程度書かれていることが重要ではないかと思う。
- ・ 財政動向のご指摘について、今後の税収、特に地方税の部分については、過去の税収動向も含めてもう少し詳しく分析する必要がある。
- ・ 様々な商業、住宅データも含めて、縦横無尽に集めることは難しいが、すでに整っているデータがあれば加え、この20年間でどう変わったのかということについて、分かる範囲でしっかり出していきたい。

### (3) 合併検証に関するアンケート調査概要

事務局より説明

委員

- ・ 施設の利用のしやすさを尋ねる場合、集計するかどうかは別として、そもそも利用するかどうかについて聞く必要がある。
- ・ 犯罪の防止や交通安全、防災などの生活安全についても、「そもそも消防団、交通安全等の活動に参加しているか」や「ごみ当番に積極的に参加しているか」等の付随意見を聞かないといけないのではないか。

委員

- ・ もう少し調査数を増やして、中山間地の声がしっかり上がってくるようにしてはどうか。

委員長

- ・ アンケート結果については、どの地域の方からの回答かが分かるため、地域ごとの配布数については調整できるのではないか。新市を作るという形で合併しているため、旧富山市も含めて平等に調査をしなければならない。
- ・ 次回は市町村合併の効果や課題について、取りまとめを出していきたい。

## 3 閉会

以上

富山市市町村合併検証委員会委員名簿

16名

No	区分	氏名	役職	備考
1	委員長	辻 琢也	一橋大学大学院法学研究科 教授	
2	副委員長	中村 和之	富山大学 副学長	
3	委員	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授	
4	委員	尾畑 納子	富山国際大学 名誉教授	8/23欠席
5	委員	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授	
6	委員	高木 繁雄	富山商工会議所 会頭	
7	委員	高城 繁	富山市社会福祉協議会 会長	
8	委員	高橋 明	日本政策投資銀行地域調査部 部長	
9	委員	宮口 侗迪	早稲田大学 名誉教授	8/23欠席
10	委員	北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
11	委員	長澤 邦男	大沢野地域自治振興連絡協議会 会長	
12	委員	山森 潔	大山地域自治振興会連合会 会長	
13	委員	中井 義則	八尾地域自治振興連合会 会長	
14	委員	茗原 勉	婦中地域自治振興連絡協議会 会長	
15	委員	山田 憲彰	山田地域自治振興会 会長	
16	委員	江尻 裕亮	細入自治会連合会 会長	
	オブザーバー	滑川 哲宏	富山県地方創生局市町村支援課 課長	8/23欠席